

第七卷 黑人住教史
本科

黑人住教々義	一年級(業一週授)	六年級(業一週授)	二年級(業一週授)	八年級(業一週授)
國史	三時間	日本古代史	三時間	三時間
世界史	二時間	宗教學及宗教史	三時間	三時間
國語漢文	四時間	哲學概論	二時間	二時間
倫理學	二時間	法令及教規	一時間	一時間
心理學	二時間	作文	二時間	二時間
論理學	一時間	諸祭式及禮法	二時間	二時間
社會學	二時間			
計	二拾二時間	計	二拾二時間	
隨意科外國語	三時間	隨意科外國語	三時間	三時間

研究科及別科もありて、前者は、官公立立専門學校以上の卒業者、

及び同教々師中の研究志望者を集め左の如き學科を授く

研究科	業一週授	別科	業一週授
黑人住教々義	拾二時間	黑人住教々義	拾二時間
宗教學	二時間	國史	三時間
哲學史	四時間	宗教學及宗教史	二時間
法令及教規	一時間	倫理學	一時間
諸祭式及禮法	二時間	法令及教規	三時間
		作文	二時間
計	二拾一時間	計	二拾五時間

而して、教師には、文學士三名其他之に比適し、或は以上とも目せらるべき人々從事し居らるゝが如し。

夫れ黑人住教や、斯くの如き運動を試みつゝあり。而して着實穩健な

る態度を持して、他の多くの所謂迷信教が云爲行動する輕躁なる所爲は、つとめて避けつゝあるが如し。眞に慶すべし。然れども、同教が從來蒙りし迷信教の汚名を洗除し了りて、文明宗教なりとの認識を得んには、前途中々に遠達ならざらばならず。先づ第一は人物を得ざる可からず、而して人物も、一人や二人にては中々困難なるべし。相當なる知識を有する人、健全なる人物が、同教々徒たるに至らざる可からず。教師養成所の開設、其經營施設の眞面目なるが如き、吾人の大に賛する所、希くば、機えず屈せずして、大に其本領を發揮せよ。不幸にして、一切の宗教を信する能はざる吾人は、又黒住教をも信する能はざれども、雄渾崇高なる偉人の追憶が、社會の墮たることは、吾人の認識して、疑はざる所、所謂「宗忠の袋に入る」は吾人の避けざる可からざるものなるも、彼の偉なる所以を紹介して、多少たりとも世の参考に資せんは、吾人の何時にても

之を辭せざる所なり。本書の出づるも、此意味に由ること、序言中に述ぶるが如し。常に本書が、未知の人々に此隠れたる一偉人を紹介すると共に、黒住教徒に、彼等の教祖は、其思想に於て、其人格に於て、優に一偉人たるを認識せしむるあらば、著者の勞は徒爾ならず。

偉人黒住宗忠終

附 録 黒住宗忠詠草及書翰抄

詠草廿九首

○ かきりなき命の本のあらはれし道のはしめに人と成りぬる
 ○ 千早ふる神世も今もあなし世をみな末の世とあもふあはれは
 ○ 日の本に生れなからに日を知らすゑた葉にともすひをかりて見る
 ○ 有物は皆吹はらへ大そらのなきこそ己かこゝろなりけれ

○ 有無の中に住へきなきものをなきとあもふな無こゝろにて
 ○ 身も我も心もすてゝ天つちのたつたひとつの誠はかりに
 ○ 身も我もすてんと思ふ心なる其心をもすてまほしさよ
 ○ たもつともまたすつるともあもふまじたゝ樂しみの心ばかりに
 ○ たのしみも我樂しみとあもふまじたゝ天地の樂しみにして
 ○ 心とは外にはあらず天地の有無をはなれし中の活物

附録

天地と共にめぐりし心こそ限りしられぬ命なるらめ

○ 天地の道に迷はぬ心こそ生れすしなぬ心なりけれ

○ 天地の心はちのか心なりほかに心の有とおもふな

また此歌に迷ひ給ふな其心を

○ なきといふなきには人の迷ふらんなきこそ有の本の本なり

○ 我われと思ふ我身は天のわれわがものとは一物もなし

○ 我といふ其一物をすてぬればひろき世界は我身なるらん

○ 姿なき心を生けてつかひなば天下にてもみちわたるらん

○ 生死も富も貧苦も何もかも心一つの用ひやうなり

○ 心から生る人こそかしかけれ死る人こそあろかなりけれ

○ 難有やわれ日の本に生れきて其日の中にすむと思へは

○ 天照す神の御腹にすむ時はねてもさめても面白きかな

○ 天照す神の御徳をしる人は日月と共に生通なり

○ 天照す神と人とはへたてなくすぐに神ぞと思ふうれしさ

附録

附録

千早振神のうみ出すうみの子よ親の心をいたましむるな

○ 限りなき神と君との一系をわすれ給ふ人の心に

○ 道の人道をすくにそ行き給へ小道によれば難所なるらん

○ 向ふ事みな御蔭かと思ひなはねてもさめても難有かな

○ 難有き又面白きうれしきとみきをそのふそ賊なりけれ

○ 天照す神の御徳を世の人にのこらす早くしらせたまもの

論道書翰

○ 道の事も益繁榮の趣御座候此御悦び可被爲下候妙は彌あらはれ候
得共此妙も逆も天地の妙也我妙に御座なく候間皆天地の妙也我を
はなれ候事のみ執行仕候病の事は少も苦に成る物に無御座何事も
天に御まかせ被成候はゞ萬事たのしみの外は無御座一切をしへは
てんよりおこる也其をしへ請て日々樂暮こそ信心也

○ 道も彌以繁榮仕難有御事に奉存候此段御歡可被下候奇妙は天地の
奇妙とぞんじ候得共小子なす處計にケ様に妙あらはれ候事難有奉
存候夫に引替萬事の行十が一ツも勤不申候こと時にはせまる位に
御座候さりながら我心も我身も天地の物なれば何事もしせんのを

附録

附録
す所也とぞんじ心をやしなひ相暮居申候

◎
何事もく御任可被遊候皆天命に御座候間難有より外は無御座と奉存候幾重もく分別は少もく入用に無是物と相見へ候天道まかせ程世に安心成事は無御座候心安く暮し候こそ高天原と奉存候其原こそ神はましますと奉存候心くもる時はまよひ成透ひの中に鬼も蛇も居申候誠に恐敷は迷ひ也心明成時は則天照大神我一心にあらはれたまひて運をそへたまふ事疑ひ有べからず有がたし

くく時に一首

有かたやあら面白や

◎
ころの雲のはれ渡る時

身も我も心もすて、天地の

たつた一つの誠はかりに

◎
此心はしれた事には御座候得共まことの本体は天照大神の御心也其有がたき事を一筋にあもひ萬事御任申上是にて何事も氣遣いなしと疑ひをはなれ候得ば直に御かけは目の前に顯れ可申候皆人々疑なしとは思ひ候得共苦に成あ病あこり候も皆疑也例の誠は丸事にてすぐに一心一體也かよう申上候も如何と奉存候得共尊君様も小子始て參上仕候時申上候處を少にても御疑被遊候はと乍恐只今は此世には被成御座候事難計奉存候左様候へば彌以天照大神へ御任せ遊し萬事少も御氣遣なしと御定可被遊候此心が今の歌の心に御座候直に其心が誠也

◎
誠に日月四海を照し給ふに少も御苦みなく道は其日月より出たる道に御座候得はつとまらぬと申事無御座候其爲の道に御座候呉々

附録

附録

もたゝ有かたきと申事御忘被遊中間敷候於小子者毎朝一度も忘は仕不申御約束通に仕候時に一首

誠ほと世に有りかたきものはなし

まこと一つで四海兄弟

御笑ひ草いつもく認候時無念より何成とも氣にうかみ候事を其まゝ相認候

◎

誠は道は六ヶ敷事は少しも無御座候兼々申上候通直に天照大神也さすればいさどうし也晝夜の分知なくいささへすればみな大神の道也たゞ少しの間もゆるみなく穢れぬ様いたし候へば何事も難有事斗時に一首御笑

難有事のみ思へ人はたゞ

けふの尊き今の心の

兼々申上候通我本心は天照大神の分心なれば心の神を大事に仕候得は是ぞ誠の心なりおもへばく心一ツにて自由自在とおもへは此上もたのもしき御事なり

◎

何事もく少しも御分別なく天命に御任被遊候處此上も難有御事奉存候時に一首只今侍る

難有中に住ける神々を

猶有かたきおもふ人々

と仕候此人々こそ御守り被遊候哉と奉存候天下に一番と申呉の人たりとも此處わすれ給ふ人は末はつまらぬ物と奉存候

◎

よき事は難有樂み悪敷事有時は執行と奉存候得ば何事も一切執行をもるゝ事無御座候其餘は萬事難有はがり也何事も皆天命を樂時

附録

附 録

はもつたひなくも 天照大神様のはら也

◎

此間まん心の門人を段々にしめし候處威心いたし神文書改めほつ句一首

立寄て鶯さゝぬ 梅の宿

道執行の心を

登れともまたおほろなり みねの月

といたし小子に道歌一首所望いたしもんもふの小子ゆへとうわく仕候しかし心斗かく侍る

關よりくらきに入よ人心

月は誠の空にこそすめ

といたし候くらきと申心は自身のこと、申心にて誠に少にても我に明り入候とそんし候得は大成まん心也いよく我ちへをすてい

信心をいたし候得は其中に誠に有かたき夜の明たることくのことありいよく我ちへをすつること道の道也

◎

何事も道を離れさへ不仕候は悪敷あとは又能事御座候其道はいつ迄も生通也不申上とも道直に生通也其心と我心則一體なれば一心亂れさへ不仕候は限りは無御座候時に一首

天照神の御心我心

二ツなければ死する物なし

◎

道は誠勤安き物也其安き事がつとまらぬものと見へたり其つとめというは道に住事也其道と申は兼々申上る通り 天照大神也則九き御神也先便にも申上候通り○支に奉任候者也其任する事安き事也唐も大和も是迄其所が氣の付ぬ事の不思議成る御事也道といふ

附 録

附録

こと名に迷ひ誠の道をはなれたる人天下一とう也其道を離ぬが我
とく所の道也御縁有御人は晝夜共道に住たまふべし少にても道
はなれたまふ時は直にあやうき事也御油断あるべからず時に一首

天地にたゝ一筋の其道を

すぐに行こそ樂しかりけれ

誠にく一筋のみちが常のみち也その常ほど世に難有事は無御座
候

◎

毎度道の事御尋被遣先折合居申候古田氏宇三郎など古連以前に立
戻り其外人ましも不仕候得共一心は立候哉と奉存候人は兎もあれ
角もあれ我執行大切に奉存候じかし講釋は甚宜敷皆々悦申候先日
も道歌に

こゝに來て口斗りにてとく道を

耳斗りにて聞給へ人

といたし候心は己か心をはなれてとく時は口斗り也其時何となく
無心の所か口に出るなり是則天のいはしむるなり又聞く人も耳は
かりにてきゝ給は、誠に一躰なり天地一躰なる時は外に我といふ
ものなし其時は天心なり少しにても心あらは迷出と奉存候返す返
すも何事も天地に打任せ望をはなれ執行仕度奉存候

◎

天照大神の御神徳は言を以て難述御事にて候へは難有と申候より
外無御座候誠の一心に相成生死を離れ神佛諸道の極意を究る事至
て堅くて至て安く只難有といふ一心に相成

天照大神と一心と一心に相成少しも亂れ不申時は死と申事絶てな
し是神明一躰にして天地の間に明りの入らざる事更になし外に道
の執行無御座候人は萬物の靈長たるもの故こゝろのもちわやうに

附録

附録

て何になりともなられるものゆゑ心を神にして神の行ひをすれば
神也心を佛にして佛の行ひをすれば佛なり鬼の心になり鬼の行ひ
をすれば鬼なり畜生の心になれば畜生なり今何になるとも心のう
ちに拵候もの出来次第になるなり神道の執行はこゝろに神を拵へ
神の行ひをすることを神道本意なれば望次第に成られるゆへ御油断被
成間敷候

◎

此間もふと一首餘り高尚に御座候得共自然と出候まゝ

千早ふる神代も今も同じ世を

皆末の世と思ふ憐さ

とよみ其講釋仕候古昔の日月も今の日月もいにしへの心も無形今
の心も無形わか分別をのけてみれば古今の隔なしとほひにすま
は大に通す其通すへさ心のみにして形を忘るゝ時は今も神代なる

へし今小子講釋いたすとも神世の講釋なり聞人の心も我を離れ給
ふ時は直に神代なり神世の次第に神徳厚く相成る事とそんし彌難
有奉存候

◎

道の事御尋越被成委細承知仕候誠に御信心厚く御修行御丹誠と御
厚志奉成佩候しかし生通しと申事は心も肉體も共に生榮えて參候
事道の本意に御座候心が活物に候故心活て參候は、形は心に付隨
よもの故活榮え參るに限りは無御座ものに御座候第一天道は生々
にて天地の道には死ると申事は更に無之者に御座候間此所御依得
被成願くは形諸共御活通しに被成度御事に御座候然れとも我と申
恐敷もの御座候故我と申者を御捨不被成而は明るき天道御合點行
兼候者に御座候間我を離れ難有一心を以て御執行被成度候道は生
通しに相違無御座候へ共如何様に諭し候而も得聞取らざる人尙誠

附録

附録

を不動人は親子兄弟に而もいたし方無御座候ものに候間此所能御合點可被成御事に御座候御道御執心之程は威心仕候へ共理を以て御穿鑿よりは我を離れて誠を勤る事を第一に御執行被成度候我を離れ誠を勤るか即ち活物に御座候此活物を以て天地の活物を呼出しさへ被成候へは自由自在に御徳蒙ふられ候也我を離れ候誠の本體か直に

天照大神と御合點可被成候我を離れ候誠は天照大御神と少しも隔なき活物に御座候

限りなき天照る神と我心

隔てなければ生通し也

此歌の場を返すくも御信心被成度御事に御座候

◎

未御腫物御直り不被遊よし御難義様と奉遠察候歌と申事も存不申

候へ共笑草

雲さりはしせんの風の拂ふ也

無き身をしれはかくの如きそ

乍憚御自身を御自身と不思召天地のものと思ひ給はした、難有のみに相成り可申候た、今のさやう歌に身の無さと申候は兼ての目付にて無きこそかへつて有なれ天は則無にして則有なり人の心も其通りなり無にして有り彌無きものと被成候は、其御心いつまでもさらす心さらすは御身もますく、大丈夫なるへし且此靈符宜敷祈念仕候彼形の爲に御頂戴不被成御心の爲に御頂戴可被成候御心さへ自然と御開き被成候は、形の上は兎にも角にもに御座候

附録

* * * * *

附録

誠を取外すな
 活物を捉へよ
 陽氣になれ
 我を離れよ
 天に任せよ
 心は大磐石の如く鎮め
 氣分は朝日の如く勇ましくせよ

偉人黒住宗忠附録終

明治四十一年五月十二日印刷
 明治四十一年五月十五日發行
 明治四十二年四月十日再版印刷
 明治四十二年四月廿一日再版發行

定價金五拾錢

著者兼發行者

木山熊次郎

東京府下豊多摩郡千駄ヶ谷原宿八十六番地

印刷人

佐久間衡治

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

印刷所

英舍

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

著作權所有

發行所

内外教育評論社

東京府下豊多摩郡千駄ヶ谷原宿八十六番地

振替貯金口座番七〇番

同じ著者の著述

内外教育評論

月刊教育雜誌

社會主義運動史

定價七十五錢

希望の青年

定價四十五錢

文學士木山熊次郎主筆

内外教育評論

毎月一回八日發行
四六二倍版八十頁内外
定價部郵稅共金拾六
錢半年分前金九拾錢壹
年分前金壹圓八拾錢

●●●●●
教正國謹教

育 嚴 家 確 育
に 社 家 確
雜 會 の 社 確
誌 大 事 會 育
界 局 よ の 報 新 兒
々 た り の 告 者
の 詳 観 論 星

發行所

東京市赤坂區青山原宿八六
番
振替貯金口座登貳七參〇番

内外教育評論社

大賣捌

東京堂、東海堂、北隆館、良明堂、上田屋



●血あり肉ある修養觀



文學士 櫻井天壇君序
文學士 大島正徳君序
木山文學士著

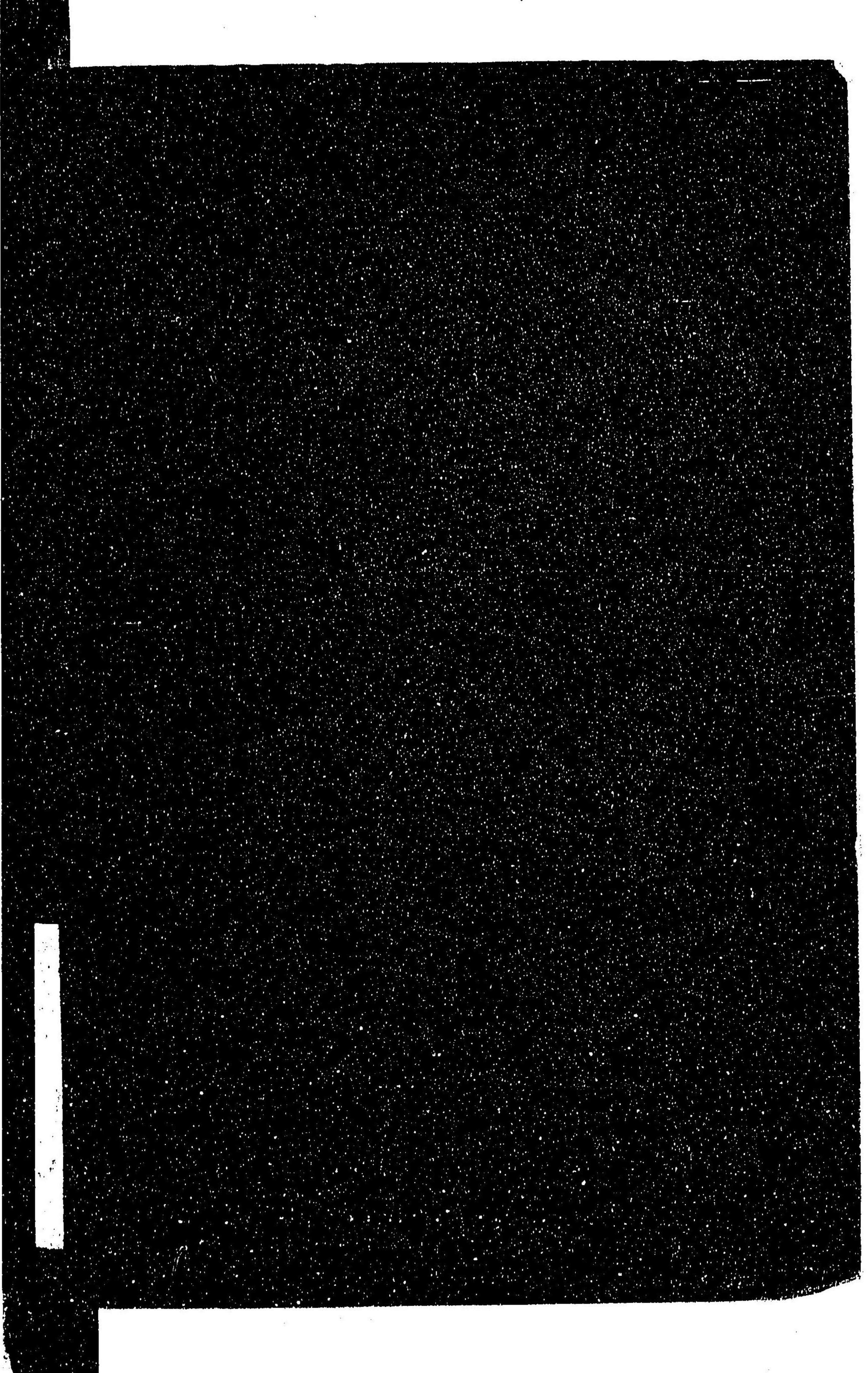
希望の青年

四六版二百五十頁
定價四十五錢
郵税四錢

人生問題、求職問題、成功問題、修養問題に對する著者の煩悶、實驗、及び希望を露骨に正直に述べたるもの也。●眞率と沈痛と冷嘲と熱罵との間に現代思潮の病弊を指摘し青年が採るべき將來の態度を示す。●明快にして暢達なる言文一致體を以て空理空論ならざる著者の家現實感を説く、所直ちに人の肺腑を刺さるはやまず。目次左の如し
(一)思想界の問題 (二)人生は不可解か (三)求職に秘訣あるか (四)望むべき眞の成功 (五)困難の幸福 (六)古人に塊づ (七)金石も亦透る (八)求めたり然れど與へられず (九)煩悶の青年 (十)希望の青年 (六)古

●本書が如何に思想界の人士及び新時代の青年間に大なる感動を與へたるかは、冷く江湖の知る所なり。或は本書を以てルソンの懺悔録に比せるあり。若し夫れ近來稀に見る大文字と評せる新聞雜誌に至つては其數十餘に止まらざりき。

發行所 振替貯金口座東京二七三〇番 内外教育評論社
大賣捌所 東京堂。東海堂。北隆館。上田屋。良明堂。教文館。



324
844

013814-000-9

324-84

偉人黒住宗忠

木山 熊次郎 / 著

M42

ABB-0023

